新聞を活用した思考、判断の力、表現の力の育成

～新聞に親しみ、新聞に学ぶ児童を目指して～

加東市立鴨川小学校　校長　岡　敏久
教諭　藤原　達矢

１．はじめに

本校では、昨年度（平成 25 年度）よりＮＩＥの実践校指定を受け、２年間新聞を活用した実践に取り組んできた。

１年目である平成 25 年度は、新聞を読みやすい環境を整備する▽朝の学習の時間や教科学習を通して新聞を読む機会を設ける▽国語科や総合的な学習の時間などの学習のまとめを新聞の様式にまとめる―の三つの取り組みを行った。

その結果、日常的に新聞を読み、友達や教師と新聞のニュースを基に会話をする児童が見られるようになった。

しかし、昨年度は、実践代表者の担任する学級であった３・４年生のみが積極的に取り組んだ実践となり、全校に新聞の活用を広げられなかった。特に、低学年での実践に課題が残った。

そこで、本年度は、昨年度に引き続き、新聞に親しみ、新聞から学ぶ児童を育てることを目標として設定した。そのために、昨年度の実践を継続しつつ、より全校的に新聞を活用した学習に取り組むことを目指した。

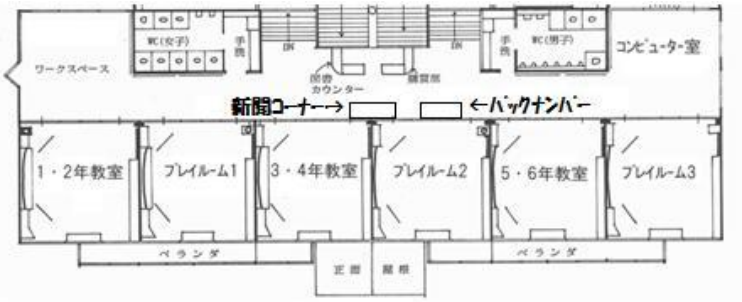
２．取り組みの実際

（１）環境整備

昨年度同様に、２階廊下中央部に新聞コーナーを設けた。そこに毎朝、広報委員会が新聞を並べるようにした。届いた新聞は、ホチキスで止め、パンチで穴を開けて、つづりひもで１カ月ごとにまとめた。

本年度はもう一つ机を設置し、バックナンバーも並べられるようにした。

また、月に１回、神戸新聞社から届けられる「マナちゃんナビくん写真ニュース」を廊下に掲示することでニュースに関心が持てるようにした。



（２）全校生：新聞写真大賞

本年度、実践代表者である藤原は１・２年生を担任していた。しかし、昨年度もそうであったように低学年は新聞になじみがなく、記事を読み取る力も未熟であった。

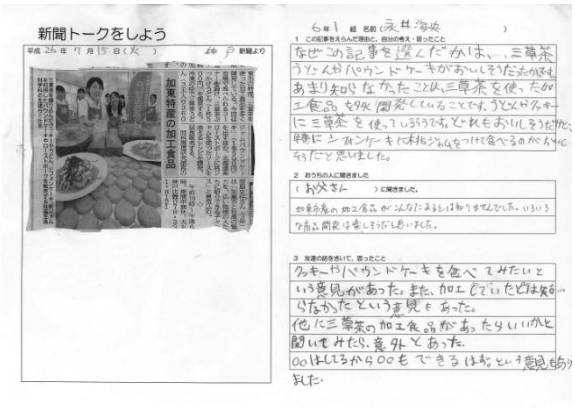
そこで、新聞に掲載された写真に注目した。写真であれば、１・２年生でも見比べたりでき、写真をきっかけに新聞記事に関心を持たせるのが可能と考えたからである。

まず、過去１カ月の新聞の中から自分の興味を持った写真を選ばせた。写真については、「きれい」「かっこいい」「かわいい」「おもしろい」の四つの視点で選ばせた。

次に、それぞれが選んだ写真を廊下に掲示し、どの写真がきれいか、かっこいいか、かわいいか、おもしろいかで投票をさせた。

そして、投票の結果、一番多かった写真を大賞として廊下に張り出した。しかし、ただ掲示するだけでは、「きれい」「かっこいい」で終わってしまう。そこで、教師が一言コメントを付け、新聞コーナーにその写真の記事を並べた。

（３）５・６年生：新聞トーク



５・６年生では、各自が気になった新聞記事を基に、選んだ理由や思ったことをプリントに書き込ませる。また、プリントは一度、家に持ち帰り、おうちの人にもご意見を書いていただいた。

それを、朝の学習の時間の「新聞トーク」で発表し、他の児童は質問をしたり、意見を発表したりさせた。

この活動を通して、社会のさまざまな事象に関心を持ち、それを基に意見交流ができた。これは、毎週、全校で取り組んでいるフリートークで話し合う力を育んできたからだと考えられる。このことから、５・６年生のみフリートークにおいて、同じ新聞記事を見ながら意見を交流するのが可能だと考える。

（４）４年生：総合的な学習の時間

４年生は、総合的な学習の時間で地域に捨てられているごみについて調べた。そして結果や考察・感想を新聞の様式に沿ってまとめさせ、地域の方々に配布した。

また、ゴミ拾いの取り組みと市民へのメッセージを壁新聞にまとめ、市役所や公民館などの公共施設に掲示した。さらに、アンケートを用意し、多くの方から感想を頂いた。

（５）新聞記者派遣

10 月に毎日新聞姫路支局加古川通信部から髙橋一隆記者に来ていただき、全校生を対象にして出前授業を実施した。

１・２年生には、新聞の読み方や書くときに気を付けている点を聞いた。記事は常に間違えないよう注意を払って書くようにはしているが、万が一、ミスをしてしまったときには、すぐ訂正するようにする。こうした行動は、子どもたちの他の学習にもつながる。

４・５・６年生には、新聞を書くために取材の仕方についてお話をしていただいた。同じ記事でも、どのような写真を掲載するかで伝わり方が変わるとのことだった。

３．成果と課題

（１）成果

２年間、学習の中で新聞を読む活動に取り組んできたことで、子どもたちが新聞に慣れ、子どもたちと新聞との意識の距離が縮まったように思った。それは、休み時間の様子から感じられた。昨年度、実践代表者が担任をしていた４年生の中には、朝の始業前や休み時間に廊下で新聞をめくって興味のあるニュースを探す児童が見られた。また、本年度、新聞トークをしてもらった５・６年生の中には、２、３人で新聞コーナーに集まり、ニュースについて話をする姿もたびたび見られた。昨年度初めの意識調査から比べて大きな変化である。

（２）課題

新聞を読む姿が見られるようになったが、見ている新聞はほとんど毎日小学生新聞や朝日小学生新聞であった。中には、神戸新聞の地域版を見ている児童も見られた。しかし、読売新聞や日本経済新聞などの一般紙や経済紙は、ほとんど見ている様子がなかった。これらは、未習の漢字が多く、内容も高度であるため、子どもたちにとっては読みにくい。教師にとっても、実践する上でも扱いにくく、ほとんど子どもたちに読ませる活動を行えていない。

この２年間で子どもたちを新聞に慣れ親しませることができた。新聞を読み、内容を読み取るのは大切である。しかし、ただ読み取るだけにとどまらず、そのニュースに対してどのように感じるか、自分ならどうするかなど、それぞれの思いを持たせることが最も大切であると考える。高学年の新聞トークをさらに進化させ、そこから何を感じたかを交流させるような活動に取り組ませたい。

４．おわりに

現代社会は、情報があふれている。その情報を得るための手段もさまざまである。新聞、書籍、会話をはじめ、テレビ、パソコン、スマートフォンと新しい情報端末が増えていっている。しかし、すべての情報が正しいとは言えない。特に、インターネット上の情報は不確かなものも多い。そのような時代を育っていく子どもたちであるからこそ、情報の選び方、捉え方を身に付けさせたい。その一つの手段として、新聞を活用して学習を進めていきたい。